

生活文化常任委員会行政視察概要

令和5年8月9日（水）

於 議会特別応接室

午前10時00分～午前11時30分

1 調査概要

「ごみ減量化の取組について」

静岡市環境局ごみ減量推進課課長補佐兼企画係長

静岡市では、ごみ減量化の取組として、静岡版「もったいない運動」、食品ロス削減の取組の「シズオカたべきり協力店」、小・中・高等学校へのごみ減量出前授業などを行っている。

もったいない運動では、4Rとして①リフューズ(断る)、②リデュース(減らす)、③リユース(再使用する)、④リサイクル(再生利用する)の推進、食品ロス、生ごみの削減、プラスチックごみの削減などに取り組んでいる。

食品ロス削減の取組である「シズオカたべきり協力店」事業は、市内で営業する飲食店に対して、食べ残しや食材の廃棄などによる食品ロス等のごみの減量に関する18項目の取組の中から実施しているまたは今後実施する取組を2つ以上実践してもらう。認定されたお店には認定ステッカーや卓上啓発POPを渡し、静岡市公式ホームページに掲載することで登録店のさらなるイメージアップを図っている。現在の登録店舗数は221店舗。

小・中・高等学校へのごみ減量出前授業では、学習指導要領を意識し、単元の一部として実施しており、小・中学校の場合は1コマ(45分)または2コマ(90分)から学校の要望によって時間を決定している。高等学校の場合は複数回の授業コマを使用して授業を実施している。出前授業では市の職員の説明を受けるだけでなく、民間企業と連携し、企業が抱



える課題の解決方法を考えるワークショップを行うなど、子どもたちの記憶に残るような工夫がなされていた。

2 主な質疑応答

問 企業に対するごみ減量対策は。

答 企業にもできる製品に対する減量化の取組を考えてもらう中で、学校への出前授業にも一緒に参加してもらっている。

問 静岡市の最終処分場はあとどれくらいもつか。

答 令和8年にはいっぱいとなるため、次の処分場を準備している。

問 ごみの有料化についての考えは。

答 ごみの減量化のためだけではなく、有料化に当たっては目的を市民に伝えることが必要で、高齢者のごみ出し支援にお金を使うことや、ごみの処分にはお金がかかることを市民に説明した上で納得してもらうことが重要と考えている。

問 ごみの肥料化とはどのようなものか。

答 ごみを焼却した灰を高温で溶かし、灰に含まれるダイオキシン類を分解し、重金属を封じ込め水で急速に冷やすことで生成される安全なガラス状固形物を熔融スラグというが、静岡市の西ヶ谷清掃工場で生成された熔融スラグは全国初の農業用肥料として本登録されているほか、海洋分野では藻場ブロックに利用されたり、土木分野ではアスファルト舗装や道路側溝などのコンクリート製品の骨材や道路掘削に伴う埋戻し材料としても利用されている。

問 カン・ビンの収集が月1回で、ペットボトルは市内の集積所の持っていくこととなっており、収集頻度が少ないが、それをカバーする仕組みは

答 拠点回収は随時持ち込めるが、距離が遠い場合もある。スーパーでの回収に力を入れるとともに、昨年からセブンイレブンと連携協定を結び、市内約80店舗の店頭でペットボトル回収機を設置している。そこでは市民が洗ったペットボトルを持ち込んでナナコポイントに変えるサービスを実施している。

問 指定袋以外にも認定袋を設けているがどのような制度か。

答 認定袋とは市の認定を受けたスーパーのレジ袋で、大きなサイズのごみ袋の必要のない一人暮らしの方などに向けた対応である。レジ袋に透明度などの規格を設けたものである。

問 学校給食の残渣はどのようにしているか。

答 学校給食の残渣も事業系ごみであるが、今は清掃工場に持ち込んで処理をしている。今後は、これを減らすために生ごみの堆肥化や家畜の飼料化をするために、民間の活用を考え民間ごみ処理のための許可を出し、ごみを減らすように考えている。

以上